

## ホソバオケラの立枯病（新称・国内新発生）

薬用作物のホソバオケラ (*Atractylodes lancea*) について 2019 年頃から胆振地方で生育中の株が立ち枯れる症状が発生していた。発生株では初めは葉の黄化、しおれが認められ、病勢が進展すると株全体が黒くなり枯死した。根や塊茎には腐敗が認められた。腐敗部からは *Rhizoctonia* 様の菌糸を有する菌が分離され、分離菌を接種したところ原病徴が再現された。分離菌は菌糸幅 4.1-6.3  $\mu\text{m}$ 、1 細胞あたりの核数が 2 個の 2 核 *Rhizoctonia* の特徴を有していた。rDNA-ITS 領域の塩基配列は、2 核 *Rhizoctonia* AG-A の配列と 100% の相同性を示し、2 核 *Rhizoctonia* AG-A と同定した。国内では *Rhizoctonia* 属菌によるホソバオケラの病害は報告がないため、立枯病と病名を提案した。

(中央農試、夕張ツムラ(株))



ホソバオケラの立枯病（北見農試 森 原図）